

2013 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成公募 決定のお知らせ

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストが公募した「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成について、計 5 件の企画が決定しました。選考委員についても併せてご紹介いたします。

2013 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」 助成公募選考委員（あいうえお順）

- 岸田ほたる（元 A SEED JAPAN 事務局長）
- 後藤和明（らでいっしゅぼーや農産部長、Radix の会常務理事）
- 田中 優（未来バンク事業組合理事長）
- マエキタミヤコ（サステナ代表）
- 宮田秀明（摂南大学名誉教授／環境科学、食品衛生学、公衆衛生学）
- 森 撰（オルタナ編集長）
- 安田節子（食政策センター ビジョン 21 主宰人）
- 山田敏郎（金沢大学教授 大学院物質科学専攻長／化学工学、蜂群崩壊症候群研究）
- 古瀬繁範（地球と未来の環境基金理事長）
- 星川 淳（アクト・ビヨンド・トラスト理事長、作家・翻訳家）

「ネオニコチノイド系農薬フリー地域づくり」

一般社団法人日本在来種みつばち協会（申請者：高安和夫）

助成金額：1,000,000 円【広報・社会訴求／市場“緑化”／政策提言部門】

茨城県の稲敷市、笠間市、大子町において各自治体や茨城県農村環境課と連携したネオニコフリー地域づくりを支援し、田んぼの生き物調査会やどんと焼きイベント開催などで、地域とそれを支援する都市生活者の交流を促進する。さらに地元議員や国会議員、JA 関係者や流通関係者も参加するシンポジウムを笠間市で開催し、地域と中央が連携した環境保全型農業地域づくりモデルとして、茨城県内及び全国の自治体に発信していく。同時に首都圏でネオニコフリーのお米の PR イベントを開催し、流通業者や消費者の賛同を得る。

「ネオニコフリー・生きもの認証システムの推進」

ネオニコチノイド系農薬の中止を求める NGO ネットワーク（申請者：久保田裕子）

助成金額：1,500,000 円【広報・社会訴求／市場“緑化”部門】

ネオニコチノイド系殺虫剤を使わない「ネオニコフリー・生き物認証システム」は、昨年の活動の成果として、茨城県笠間市、稲敷市の生産者の協力を得てパイロット事業が立ち上がり、認証基準や認証手順書も完成しました。本年は個人の生産者だけでなく JA や生産組合、流通関係者にも検討会に参加いただき、認証システムを推進して行く。あわせて首都圏において生産者、流通関係者、消費者が参加する対話集会を重ね、その結果を HP やメディアに発信し、ネオニコフリー・生き物認証の認知度向上を目指していく。

「空中散布されたネオニコチノイドの飛散調査」
竹ノ内敏一
助成金額: 1,200,000 円 【調査・研究／広報・社会訴求部門】
2013 年 6 月、長野県坂城町と千曲市では昨年に引き続きネオニコチノイド空中散布が実施される予定である。そのために、申請者らプロジェクトチームは、落下量と気中濃度を測定し、ネオニコチノイドが散布され飛散したことを科学的に検証することを企画した。分析には極微量分析が可能な LC/MS/MS 法を用いる。並行してアンケート調査を行い、健康被害が顕著に生じた場合は尿分析を実施する。得られた知見を総合的にまとめ、報告書を作成する。報告書は公開し、空中散布是非のための資料とする。
「ミツバチの側からみた蜂群大量死の実態をひろめるプロジェクト」
後藤純子
助成金額: 141,000 円 【広報・社会訴求部門】
①昨年度に引き続き、今年度もみつばちの生態と、みつばちから見た環境という観点で講座を企画し、巣箱からみた大量死を含む「A TALE OF ONE QUEEN BEE」のお話を、復習用にお持ち帰りいただきたいと思っています。②このお話のミュージカル化の企画が続いています。連動して活動いたします。平成 26 年 3 月に映像の形になり、関東圏で上映会を開催する予定です。③海外で広げることが継続します。④ネオニコチノイド系農薬が胎児へ与える影響を懸念しみつばちの幼虫と対比したお話「よぼうげんそく」を構想しました。むずかしいテーマですが形にしていきたいと考えています。
「河北潟地域におけるラジコンヘリ散布を行わないエリアの拡大とカMEMシ米のブランド化」
NPO 法人河北潟湖沼研究所(申請者:高橋久)
助成金額: 1,320,000 円 【広報・社会訴求部門】

※ 他 3 件(助成額 2,787,400 円)は申請者の都合により実施を取り止めた。

[abt サイトのトップに戻る](#)